

天理市埋蔵文化財センターだより Vol.18

内山永久寺
創建九〇〇周年

天理市制60周年

平成26年度夏の文化財展

第Ⅰ部 『天理市制60周年記念 内山永久寺の残像』

第Ⅱ部 『平成25年度発掘調査速報展』

○平成26年度夏の文化財展

第Ⅰ部 天理市制60周年記念 内山永久寺の残像

第Ⅱ部 平成25年度発掘調査速報展

平成26(2014)年7月3日(木)~8月31日(日)

※ 9:00~17:00

※ 月曜日、7月21日(月・祝)、7月22日(火)は休館
会場: 天理市文化センター1階展示ホール

○文化財講演会と展示解説

会場 天理市文化センター1階展示ホール

【第1回 内山永久寺関連①】

日程 平成26年7月12日(土) 14:00~16:30

【第2回 内山永久寺関連②】

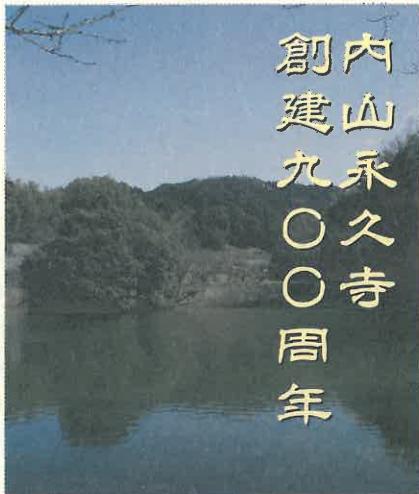
日程 平成26年7月19日(土) 14:00~15:30

【第3回 平成25年度発掘調査速報展関連】

日程 平成26年8月24日(日) 14:00~16:30

天理市教育委員会文化財課がこれまでに実施した市内の遺跡の発掘調査により、多くの成果が得られてきました。それらの成果の一部について、平成18(2006)年度より夏と冬、年2回の文化財展示をおこない、市内の埋蔵文化財について理解を深めていただけるように努めています。

平成26(2014)年は幻の大寺院「内山永久寺」の創建900周年にあたります。今回は平成26年度夏の文化財展の内容にあわせ、『天理市制60周年記念 内山永久寺の残像』と『平成25年度発掘調査速報展』の2部構成とします。



内山永久寺の残像

内山永久寺は永久2(1114)年に創建された寺院です。かつては「西の日光」と呼ばれるほどの大きな寺院でしたが、明治年間の廃仏毀釈により徹底的に破壊され、今では境内の池などにわずかに面影を残すのみとなっています。

平成26(2014)年に内山永久寺が創建900周年を迎えることを記念し、今も各地に残る内山永久寺の建造物や仏教美術、これまでの発掘調査で見つかった出土遺物をご紹介いたします。

幻の大寺院

内山永久寺は平安時代末期の永久2(1114)年、
鳥羽天皇の勅願により興福寺僧頼実が創建したと
伝えられる真言宗の寺院です。

創建当初は小さな堂宇が建つのみであったようですが、鎌倉・室町時代を通じて次第に隆盛し、最盛期となった江戸時代初頭には、大小50以上の坊・院を数える大寺院となりました。丹波市へ通じる参道には参詣者の往来が絶えることがなかったと言われます。延元元(1336)年には後醍醐天皇が吉野遷幸の際に永久寺に立ち寄った記録も残されています。

しかし、明治維新後に廃仏毀釈の波を受け、内山永久寺は忽然とその姿を消してしまいました。

■ 諸記録による内山永久寺の歩み			
成立	永久2(1114)年	鳥羽天皇の勅願により頼実が創建	(「諸寺縁起集」)
発展	保延2(1136)年	真言堂建立	
	ノ3(1137)年	多宝塔建立	
	ノ4(1138)年	本堂造営	
	承安3(1173)年	温室建立	
隆盛	建久2(1191)年	真言堂大修理	
	建保7(1219)年	本堂再建「広瀬 金剛寺」の堂を移す(現在の北葛城郡広陵町?)	
	弘長4(1264)年	常存院建立	
	文永4(1267)年	御影堂建立	
	文永7(1270)年	猿樂・風流・田楽を催す(「内山之記」鎮守造営日記)	
	永仁2(1294)年	経藏建立	
	延慶3(1310)年	智惠光院建立	
	延元元(1336)年	後醍醐天皇が吉野に遷幸の途中立ち寄る(「縁起」「太平記」)	
	寛正2(1461)年	「内山上乗院炎上護摩堂火」(「寺社事記」)	
	享禄2(1529)年	「寺家委焼亡」(「縁起書」)	
	室町時代末期	松永久秀、寺領を安堵	
	天正13(1585)年	坊・院の数が56に達する(「惣持家知行目録写」)	
	文禄4(1595)年	豊臣秀吉、朱印高971石寄進	
	江戸時代初期	徳川氏、寺領朱印状を与える	
	正保2(1645)年	このころ興福寺支配を離脱	
	貞享2(1685)年	坊・院の数が52(「内山永久寺金剛乗院絵図」)	
	延享2(1745)年	大乘院と内山上乗院の争論	
	元治元(1864)年	争論について幕府に注進	
	明治元(1868)年	冷泉為恭殺害	
	明治5(1872)年	明治政府「神祇事務局ヨリ諸社へ達」発布 いわゆる神仏分離令	
	明治9(1876)年	文部省社寺宝物調査	
		このころまでに永久寺の堂塔の太半が破却	

■ 今回の展示会で写真パネルにより紹介する内山永久寺関連遺構・遺品

種別	名称	指定	所在	時代
建築	石上神宮摂社出雲建雄神社拝殿	国宝	石上神宮(天理市杣之内町)	鎌倉
	淨福寺本堂		天理市九条町	江戸
	杣之内町篆堂		天理市杣之内町	江戸
	光明寺山門		天理市南六条町	江戸
	神護寺山門		天理市兵庫町	
	光榮寺本堂		奈良市杏町	

彫刻

持国天立像・多聞天立像	重文	東大寺	平安
不動明王坐像	重文	正寿院 奈良国立博物館	鎌倉
聖観音菩薩立像	重文	東大寺	鎌倉
愛染明王坐像・厨子	重文	東京国立博物館ほか 光榮寺(奈良市杏町)	鎌倉
如来坐像		藤田美術館	

絵画

密教両部大經感得図	国宝	岡山県博物館	平安
大威德明王像		天理市西井戸堂町	南北朝～室町

石造物

丁石		教願寺(川西町下永)	鎌倉
手水鉢		個人蔵	
伝世遺物	扁額	平等寺(桜井市三輪)	

彫刻

不動明王及び八大童子像	重文	世田谷山観音寺(東京都)	鎌倉
四天王眷属立像	重文	東京国立博物館ほか	鎌倉
毘沙門天立像	不明	出光美術館	鎌倉
持国天立像・増長天立像		個人蔵	鎌倉
不動明王及び二童子像		個人蔵	南北朝・江戸
不動明王踏下像		個人蔵	南北朝～室町
小野小町蔵		藤田美術館	桃山～江戸
弘法大師坐像		個人蔵	
厨子入弁財天及び眷属像		個人蔵	
五大力明王像		個人蔵	

絵画

真言八祖行状図	重文	正暦寺(奈良市)	平安
四天王像		出光美術館	鎌倉

工芸

亮恵上人蔵		彦根城博物館	鎌倉
鰐口		東京芸術大学芸術資料館	南北朝
笙 銘子信貴			
朱漆盆			

石造物

丁石		天理市合場町	
----	--	--------	--

内山永久寺の遺構・遺品

内山永久寺の遺構・遺品は各地に残されており、断片的にではありますが往時の姿を偲ぶことができます。

石上神宮摂社出雲建雄神社拝殿はもともと内山永久寺の本堂北側にあった鎮守の拝殿を大正時代に石上神宮に移築したもので、現在は国宝に指定されています。内山永久寺の遺構を代表する建造物です。

仏像、絵画などの仏教美術は国内各地や海外にまで散逸しています。一方、参詣者を導いた丁石など地元に残されたものも存在します。



石上神宮摂社出雲建雄神社拝殿



廃仏毀釈

江戸時代までは信仰の場面において神道と仏教は必ずしも分離されておらず混然としていましたが（神仏習合）、明治新政府は神道と仏教の分離を指示しました（明治元（1868）年3月28日太政官布告「神仏判然令」など）。ところが、この新政府の指示はいつしか全国的な仏教排斥運動につながり、数多くの寺院や仏教美術が破壊、散逸することとなりました。

内山永久寺もこうした廃仏毀釈の波を免れることはできず、明治7（1874）年時点では存在した伽藍が、明治9（1876）年にはほぼ完全に失われたことが伝えられています。

伽藍の復元

内山永久寺は伽藍（本堂・多宝塔・真言堂などの主要堂塔や池などの庭園）のほか、最盛期には境内に50以上の坊・院が建ち並ぶ大規模な寺院でした。寺域の東西南北にはそれぞれ門があり、南北（南門～北門）約550m、東西（東門～西門）約450mの規模を誇りました。

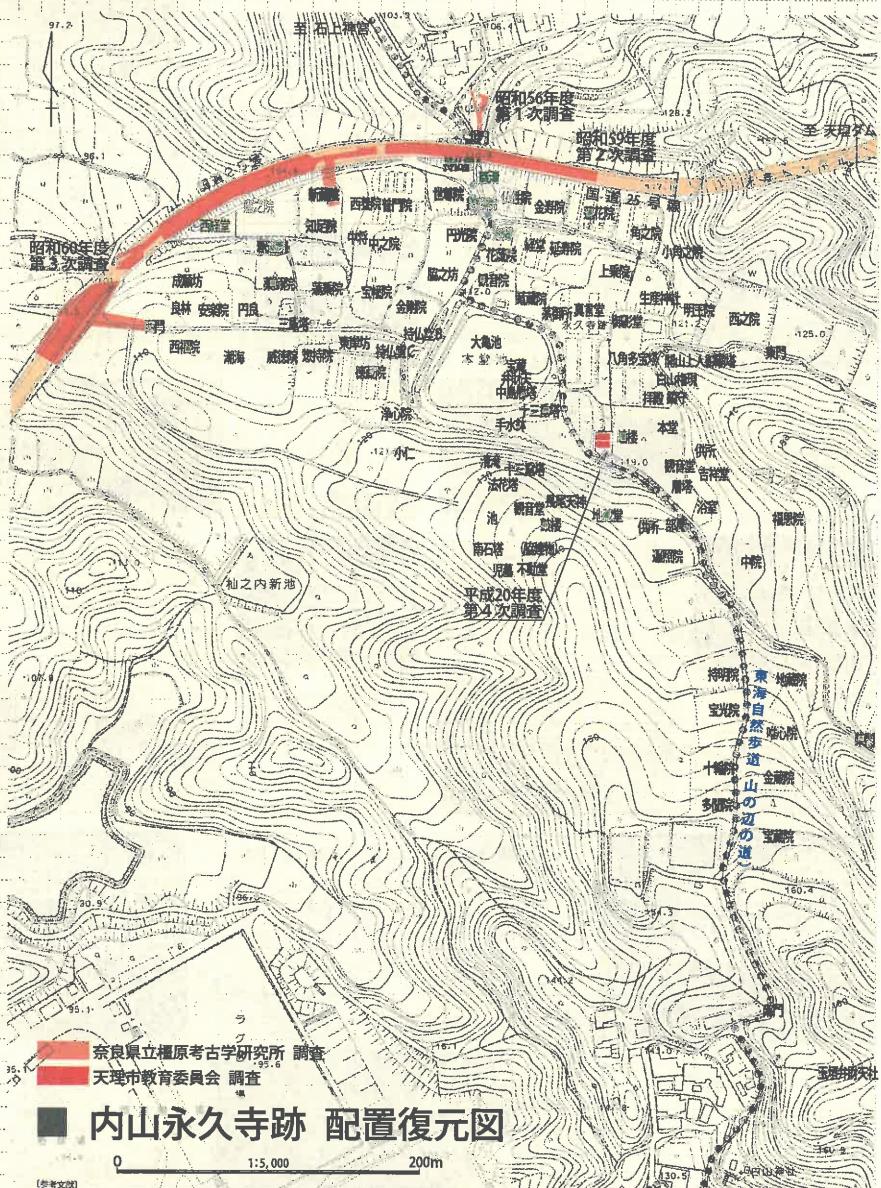
廃仏毀釈後は農地や山林となり往時の面影を偲ぶことは難しくなっていますが、各種の絵図や文書の検討により廃仏毀釈直前の主要な堂塔の配置が復元されています（右図）。

発掘調査

内山永久寺では4次にわたって発掘調査が実施されています。

国道25号線バイパスの建設に伴って奈良県立橿原考古学研究所が実施した発掘調査（第1～3次調査）では、北門・西門に関連する遺構や、境内外縁に建ち並んでいた子院に関わる遺構が見つかりました。

平成20（2008）年度にはポケットパーク建設に伴って天理市教育委員会が調査（第4次調査）を実施しました。この調査は伽藍中心部における初めての発掘調査で、永久寺創建に近い時期の瓦が出土しました。



内山永久寺跡 配置復元図



軒丸瓦・軒平瓦

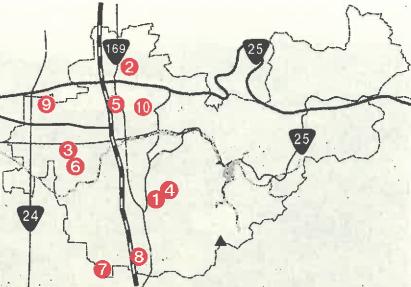
出土遺物

第4次調査で出土した軒丸瓦や軒平瓦は多くが12～14世紀のものとみられ、永久寺の創建に近い時期のものとみられます。また、瓦器碗には小型のものが多くみられました。江戸時代の瓦はごくわずかで、廃仏毀釈直前まで創建期の建物が残っていたことがうかがえます。

第Ⅱ部 平成25年度発掘調査速報展

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回は平成25(2013)年度におこなった10件の発掘調査の成果をご紹介いたします。

- ①ヒ工塚古墳第2次 ②柿本寺跡第5次 ③前栽遺跡試掘調査 ④成願寺遺跡第20次
⑤田部遺跡第4次 ⑥前栽遺跡第8次 ⑦檜垣遺跡第2次 ⑧柳本遺跡第10次
⑨名阪道路(天理地区)に伴う調査 ⑩別所丹波市線事業に伴う調査



ヒ工塚古墳 第2次

ひえづかこふん

①



期間 平成26年1月30日～
平成26年3月7日

萱生町のヒ工塚古墳周濠
推定地で範囲確認調査をおこないました。萱石基底部
や周濠などを検出しましたが、周濠は調査前の推定より
もはるかに狭いほか、萱石基底と周濠底の間に数十
cmの比高差があるなど、古墳の構造を考える上で貴重
な成果が得られました。

前栽遺跡 試掘調査

せんさいいせき

前栽小学校舎建て替えに
伴い試掘調査をおこないま
した。現在のグラウンドは
明治時代以降の沿地を埋め
立てて作られたようです。



前栽遺跡 第8次

せんさいいせき

宅地造成に伴い富堂町内
で調査しました。古墳時代
後期～奈良時代に埋没した
川の跡が見つかり、多量の
遺物が出土しました。



名阪道路 (天理地区)

めいはんどうろ(てんりちく)

⑨



期間 平成25年11月11日～
平成25年12月26日

道路拡幅に伴い喜殿町・
南六条町で調査をおこない
ました。南六条町では平成
24年度調査に続いて未知の
古墳周濠を検出しました。

見つかった古墳周濠

柿本寺跡 第5次

しほんじあと

②



期間 平成25年4月18日～
平成25年5月8日

共同住宅建設に伴い櫟本
町内で調査をおこないまし
た。古墳時代中期～後期の
埴輪が多数見つかり、古墳
群の存在がうかがえます。



埴輪片出土状況

個人住宅建設に伴い萱生
町内(ヒ工塚古墳北側)で実
施しました。調査では素掘
り溝と古墳時代中期の遺構
が見つかりました。



田部遺跡 第4次

たべいせき

宅地造成に伴い上街道沿
いで調査をおこないまし
た。主に近世の遺構を検出し、
幕末に埋没したと考えられ
る大溝が見つかりました。



大溝の発見

道路工事に伴い檜垣町内
で実施しました。素掘り溝
や溝状の落ち込み等がみつ
かり、弥生時代後期～近世
の遺物が出土しています。



調査風景

柳本遺跡 第10次

やなぎもといせき

個人住宅建設に伴いノベ
ラ古墳のすぐ西側で調査を
おこないました。古墳時代
前期初頭の小規模な遺構が
見つかりました。



調査区とノベラ古墳

平成25年度 別所丹波市線

べっしょたんばいちせん

⑩



期間 平成26年2月4日～
継続中

道路建設に伴い平成24年
度から豊田町内で発掘調査
をおこなっています。現在
豊田町の集落北側の丘陵部
の調査を継続しています。



竹林の伐採

冬の文化財展『天理市制60周年記念 古墳のまち天理』

天理市内には1500基以上の古墳が存在し、県内屈指の「古墳のまち」です。天理市教育委員会はこれまでに30年以上にわたって市内の古墳の発掘調査を取り組んできました。今回は天理市制60周年記念事業として、これまでに発掘調査を実施した数々の古墳出土遺物を一堂に展示します。また埋蔵文化財天理教調査団が発掘調査をおこなった古墳出土遺物も同時に公開します。

期間 平成27年1月17日(土)～3月15日(日) 9:00～17:00

※毎週月曜日、2月11日(水・祝)は休館

天理市文化センター1階展示ホール ※入場無料

埋蔵文化財天理教調査団

西殿塚古墳 東殿塚古墳 波多子塚古墳 黒塚古墳 櫛山古墳 西山古墳 赤土山古墳

西乘鞍古墳 小墓古墳 荒蒔古墳 岩室池古墳 塚穴山古墳 桧之内火葬墓など



平成26年度 冬の文化財展の おしらせ



天理市制60周年

発行◆天理市教育委員会 文化財課

天理市埋蔵文化財センター

〒632-0017 奈良県天理市田部町320

Tel・Fax 0743-65-5720

印刷◆富光株式会社